



子ども食堂をインキュベートするという 新しい取り組みを資金面で支援

埼玉県 株式会社USEI 「埼玉県入間市における子ども 食堂インキュベート」事業



株式会社USEI
代表取締役社長
朝川康誠さん



活動を支援している子ども食堂（入間市青少年活動センターにて開催）

埼玉県内に少ない子ども食堂の 数を増やす取り組みをサポート

1984年8月に埼玉県日高市に現ゴーブラ日高店をオープンさせ、遊技業界に参入した株式会社USEIは、「アミューズメント業界のLCC」を標榜し、現在、埼玉県、東京都でゴーブラを冠した8ホールを展開している。創業以来、社会貢献活動や地域貢献活動にも積極的に取り組み、これまで埼玉県立児童養護施設や入間市役所へのボールペンの寄付（計5,850本、468,000円相当）、自然エネルギー由来の発電による電力を含むPPS（特定規模電気事業者）への電力購入先の切り替え、省エネに貢献するホール照明のLED化、一般社団法人エコマートに加入して植林事業などを実施してきた。

そのUSEIが地域貢献活動の一環として2018年2月に取り組みを開始したのが、子ども食堂へのサポートである。子どもの孤食の解消や居場所づくりの推進を目的に全国的に急増している子ども食堂だが、同年4月3日の毎日新聞の記事によれば、全国の子どもの食堂の数は2,286カ所。埼玉県内には当時、83カ所の子ども食堂があったが、東京都335カ所、神奈川県169カ所に比べ、人口比で見ても少ない。埼玉県よりも人口が少ない北海道の113カ所、沖縄県の127カ所よりも絶対数で下回っていた。そのためUSEIでは既存の子ども食堂の支援に留まらず、埼玉県内の子どもの食堂の数自体を増やすことを目的に、その活動に着手した。



子ども食堂で調理を手伝う代表取締役社長の朝川康誠さん



子ども食堂への貸出用に購入した木製積み木

子ども食堂のインキュベーターを通じ 市民有志に助成するスキームを完成

まず、入間市青少年活動センターと面談し、子ども食堂支援の意思を伝えた。しかし、同センターが実施している子ども食堂は入間市のモデル事業としてスキームが完成しており、支援をすることができなかった。そこでUSEIでは、入間市青少年活動センターおよびNPO法人子育て家庭支援センターあいくと協議を重ね、新しくオープンする子ども食堂のインキュベーターの役割を果たす「こども食堂ネットワークいるま」の設立に至った。同ネットワークは、子ども食堂を運営したい人たちを組織化し、様々なサポートをする団体であり、入間市こども支援部、福祉部、社会福祉協議会公認の組織となった。

2018年末時点でUSEIから同ネットワークへの寄付金額は52万9620円となっており、同ネットワークを通じて、①あいくるみんなの広場、②むささび食堂、③東町にここ広場、④久保稲荷なかよし広場、⑤ふじさわキッチン、⑥宮寺二本木いただきますの会の各子ども食堂の活動にUSEIの寄付が活用された。このうち、③～⑥の4件の子ども食堂は、USEIから同ネットワークへの寄付が実施されてから新しく誕生した子ども食堂である。

USEIが同ネットワークに資金提供（寄付）をし、同ネットワークが入間市内で新しい子ども食堂を立ち上げたい市民ボランティアなどの有志に活動資金とノウハウを助成するというスキームが完成したことになるが、その提供資金は木製積み木や炊飯器、CDプレーヤー、横断幕・幟旗等の備品の購入費にも充てられ、同ネットワークを通じて各子ども食堂へ貸し出されている。また、寄付だけに留まらず、USEIでは役員、従業員が子ども食堂の運営にボランティアとして参加し、清掃、調理、遊び、学習支援などの手伝いを行っている。